

資 料

マツカサウヲの幼期

内 田 恵 太 郎

朝鮮總督府水産試験場

マツカサウヲ *Monocentris japonicus* (HOULTUYN) は本邦中部以南の沿岸には珍らしくない魚で、その著しく特異な形態及び細菌との共棲発光によつて有名であるが、その初期生活史に就いては全く知られてゐず、従つて特異な形態の發現過程に就いても全く知られてゐない。¹⁾ FRANZ (1910) が記載圖示した全長 35 mm の稚魚が報告されてゐる最小のものであらう。この大きさに於ては、既に體の概形は整ひ、體各部の比及び體の外装が多少成魚と異なるほか、²⁾ 特徴は總て現はれてゐる。筆者は、FRANZ の記載以下の大さのものでは、現在全長 11.5 mm³⁾ 及び 15.5 mm のものを所有し、多少興味ある點が見られるので要點を略記する。

全長 11.5 mm, 體長 8.9 mm, 體高 7.5 mm, 頭長 4.4 mm, 眼徑 1.5 mm, 吻長 0.7 mm, 體高は

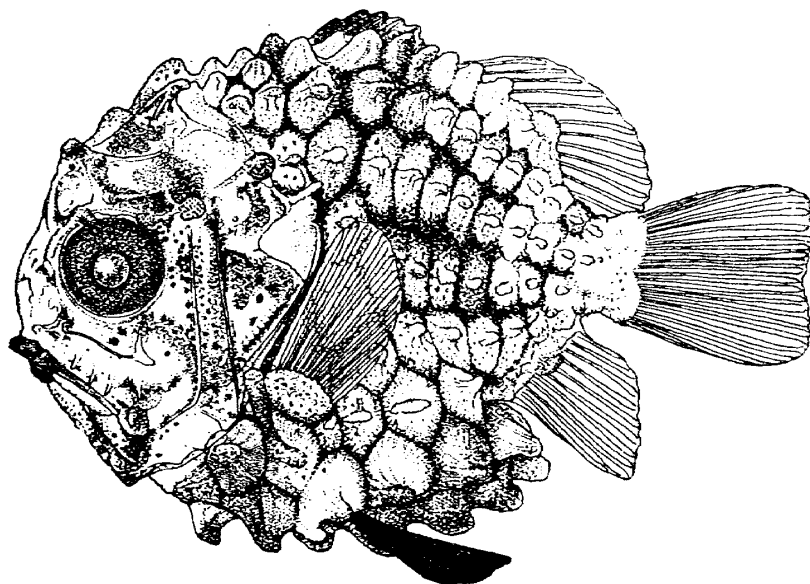


Fig. 1. *Monocentris japonicus* juv.
11.5 mm in total length. camera lucida 使用, 筆者畫。

1) FRANZ, v. 1910. Die japanischen Knochenfische der Sammlung Haberer und Doflein. *Abh. Akad. Bayer. Akad. Wiss.* 2: Cl., Suppl. 4, No. 1, S. 32, Taf. V, Fig. 40.

2) 1928 年 8 月 10 日, 慶尙南道昌善島沿岸採集。

3) 1928 年 9 月 22 日, 洛東江口外の大敷網にて採集。

成魚に比して高く、體長はその $1\frac{1}{5}$ 倍(成魚では約 $1\frac{2}{3}$ — $1\frac{1}{5}$ 倍), 體の概形は側扁した圓盤狀を呈する。頭、眼等はいづれも成魚に於けるよりも大きく、頭は高さが長さよりもよほど大きい。體の外装は既に出来、そのうへ多くの骨質突起が著しく發達してゐるため、成魚よりも一層特異の外貌を呈してゐる。

成魚の頭部骨格が外面に粗縁の隆起脈をなしてゐる部分は、この時期に於ては多くは更に著しい粗頭の突起をなし、前額部後頭部等に於ては角狀を呈してゐる。體の厚い鱗は既に全く現はれて全身を掩ひ、各鱗の中央部には粗頭を有する著しい突起がやや後方に向いて發達し、そのため體の感じは成魚に於けるよりも一層乾燥した松毬を思はせるものがある。背鰭軟條部基底及び臀鰭基底の中央兩側には各 1 個の大きな骨質突起が發達してゐる。背鰭の棘は、現はれてゐるが極めて纖小で軟らかく、軟條のやうな觀を呈し、棘間膜もよく發達してその前部は黒い。腹鰭の棘は未だ全く現はれず、これに反して、成魚に於てはわづかに痕跡的に残つてゐるに過ぎない 3 個の軟條が、極めてよく發達して大きな腹鰭を形成し、眞黒な鰭膜を持つて著しい特徴をなしてゐる。下顎先端下面にある一對の卵形の發光器は、外觀上既によく發達して黒い天鵞絨面を呈し、長さ約 1 mm で成魚に於けるよりも比較的大きい。體の色彩は成魚と大差なく、鱗の輪廓をなす黒線は幅廣く、或部分の鱗に於てはその内方にまで廣がつてゐる。

全長 15.5 mm のものに於ても體はほぼ上記のものと變らず、ただ腹鰭の棘の太い原基がわづかに現はれ、その軟條は比較的やや短くなつてゐる。

全長 35 mm のものに於ては、FRANZ の記載にある通り、背鰭及び腹鰭の棘は既によく發達して太く且細縦溝を有し、ただ長さが比較的短かい。頭部及び鱗の突起はなほ存するが、著しく低くなつてゐる。

以上によつて見るに、マツカサウヲの鱗の形成は一般の魚類に於けるよりも極めて早く、且幼時には、頭部の骨質突起とともに、成魚に於けるよりも更に一層著しい過度の發達を遂げ、然る後に成長に従つてそれが減退してゆくのである。然るに、成魚に於て著しい特徴をなしてゐる背鰭及び腹鰭の強大な棘は發達が甚だ遅い(一般魚類に於ても、鰭の棘部は軟條部に比して發達が遅いのであるが)。殊に成魚に於ては痕跡的に存するに過ぎない腹鰭の軟部が、幼期には著しく發達して大きな腹鰭を形成し、後腹鰭棘の出現發達とともに軟條部は比較上萎縮してゆく、發光器は極めて幼期より發達してゐる。

この幼期と成魚とを比較すると、マツカサウヲの異常な性質は一層その異常さを増すやうに思はれるのである。

1) マツカサウヲの骨格に就いては、STARKS, E. C. 1904. The osteology of some berycoid fishes. *Proc. U. S. Nat. Mus.*, Vol. 27, pp. 617—619. 参照。